

# 幼児の教育 第一〇〇巻 (平成十三年)

## 総目録

### ◇一号

第一〇〇巻を迎えるにあたって

田代 和美

創刊一〇〇巻を記念して 私が『幼児の教育』誌の編集にたずさわった頃

津守 真

「共に生きる」ということ 梶田 正子  
江東区子ども家庭支援センターの周辺

新澤 誠治

耳をすまして目をこらして(10) 宮里 暁美  
三歳児クラスの子どもたち 実松 瑞栄

小宮山洋夫

比企の畑から・冬 めんどくさくてもしんどくても遊び

宮本 和典

メディア文化黙示録―アニメの巻(一)

山本 政人

子どもの本から 五歳の少女が語る

ラップランドの物語 美谷島いく子

### ◇二号

雑誌の運命―『幼児の教育』創刊

一〇〇巻記念に寄せて― 本田 和子

ある日 幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(六)洋行 国吉 栄

いま、子どもたちは 子ども集団を見ていて感じることに 児童館での様子

秋庭 智子

私が幼児教育を志した頃(15) 津守 真  
耳をすまして目をこらして(11) 宮里 暁美

ラオスという国で出会った子どもたち

小林 美実

こころをあわせて 佐藤 寛子

ハロー・ディア・エネミー! 平尾美智子

### ◇三号

創刊一〇〇巻を記念して 東基吉・く

めのことなど―「鳩ぼっぼ」から  
「口演童話」まで― 森上 史朗  
ヒヨコとのふれあいの中で 都九千寿子

秋田県における幼稚園・保育所の一元

化施設をとりまく現状と課題 安藤 節子

ある日

私が幼児教育を志した頃(16) 津守 真  
子ども時代と私(23)

音痴・運痴・夜尿症

岸井 勇雄

耳をすまして目をこらして(12) 宮里 曉美  
メディア文化黙示録―アニメの巻(二)

山本 政人

日常生活における創造力とサン

テグジュベリ著『星の王子さま』を

めぐって

磯部 景子

遊びがかわるとき、遊びをみつげるとき

吉岡 晶子

◇四号 特集『幼児の教育』を振り返る  
創刊一〇〇巻記念座談会

津守 真・本田 和子・田代 和美

『『幼児の教育』史』点景 河合 隆一

『幼児の教育』と私

素人編集者の思い出 赤間 峰子

〈再録〉

婦人と子ども(幼児の教育の前身)

創刊当時の子どもと其頃の幼稚園

の状況に就いて(第五十巻第十一号)

東 基吉

発刊の辞(第一巻第一号巻頭)

椿の唱歌(第一巻第一号一頁)

『幼児の教育』と私

「日時」の頃

皆川美恵子

私と『幼児の教育』

池戸 允子

『幼児の教育』と私

榊田 正子

◇五号

「幼児の生命力を育てる保育」を

河邊 杲

『幼児の教育』と私

『幼児の教育』一〇〇巻に寄せて

―第五十六巻―六十四巻ごろの編

集員の思い出― 木原 溥子

ちよつと暖まるはなし 鍋島 恵美

横浜の保育事情を探る―少子化社会の

中での子ども過密地域― 渡辺 英則

ある日

私が幼児教育を志した頃(17)―第二次世

界大戦直後の普通のアメリカ人の精

神風土― 津守 真

いま、子どもたちは 手作り弁当につ

いて思うこと 増田 康子

耳をすまして目をこらして(13) 宮里 曉美

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(七)帰国して―幼稚園に出会うまで

国吉 栄

比企の畑から 断念すること

小宮山洋夫

◇六号

心理学徒としての倉橋惣三

サトウタツヤ

いま、子どもたちは じっくり見つけ

てつきあう時間、ゆっくり育つて仲

びる実感 尾形 節子

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(八)『幼稚園記』―幼稚園との出会い

国吉 栄

ある日

私が幼児教育を志した頃(18) 津守 真

『幼児の教育』と私

私の「幼児の教育」時代 佐藤 和代

短い冬の季節でもらったもの 霜柱に

出会った子どもたちの記録から

阿部 康子

耳をすまして目をこらして(14) 宮里 曉美  
タンカー船とハワイ行き列車 清宮 聡子

◇七号

ある日

和田実の「幼児教育論」について 辛 椿仙

忍者になりたいK男 高田 直美

育てられている時代に育てることを学ぶ

(1) 乳幼児期から青年期までの「保育教育」 金田 利子

比企の畑から 先住者 小宮山洋夫

私が幼児教育を志した頃(19) 津守 真

メディア文化黙示録―インターネットの巻 山本 政人

耳をすまして目をこらして(15) 宮里 曉美

『幼児の教育』と私

新世紀に迎えた第百巻 村田 修子

『幼児の教育』とわたし 林 健造

『幼児の教育』誌編集時代に支えら

れる今 向山 陽子

◇八号

『幼児の教育』一〇〇巻に寄せて

岡田 正章

いま、子どもたちは

試される親の本音 百瀬 道子

三歳児との出会い―大切にしたいと改めて思うこと― 上坂元絵里

私が幼児教育を志した頃(20) 津守 真

耳をすまして目をこらして(16) 宮里 曉美

特集へ緑蔭図書紹介

動物たち、子どもたち―あるいは

「僕らはみんな生きている」―

夏休みに旅を思う 柴坂 寿子

人間の驚くべき能力について 金田 優美

私たちの未来を探し求めて 小川 了

「健康」再考 小林 瑠以

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤― 首藤美香子

(九)『幼稚園記附録』―幼稚園とは何か 国吉 栄

◇九号

和田実と『幼児の教育』 辛 椿仙

特集へひらく

『地域の応接間』をひらく 熊谷 博子

ブルーポピーがひらくとき 河野 優子

「ひらけ、ゴマ!」―私の異文化体

験記・シリアの幼稚園にて― 小山 祥子

身体をひらくということ―六年間参

加したワークショップの経験と日

常生活の中での発見― 清原 規子

私が幼児教育を志した頃(21) 津守 真

育てられている時代に育てることを学ぶ

(2)―中学生を学びの主体とした「保育教育」実践から― 金田 利子・鈴木 裕乃

耳をすまして目をこらして(17) 宮里 曉美

保育の本から 神は細部に宿りたまう

―『保育』の中の小さなこと大切な

こと』を読んで― 本田 和子

先生が関わる時き

高橋 陽子

◇十号

ドイツの自然と生活

小林 美美

お兄さんになったね

岩間 里香

保育参加ウィーク「三勝二敗」

入江 礼子

ある日

私が幼児教育を志した頃(22)

津守 真

いま、子どもたちは 大人たちが誇り

をもって大人本意に堂々と生きれば

いい!

今井 嘉江

『幼児の教育』と私

思い出すままに

井上 直子

耳をすまして目をこらして(18)

宮里 暁美

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(十)『幼稚園創立法』―関信三の幼稚園

国吉 栄

比企の畑から 畑の経済学

小宮山洋夫

◇十一号

幼児文庫と幼児教育

小川 剛

モンテッソーリ教育思想の誕生(1)

近代化の中で翻弄される子どもを前に

早田由美子

子ども時代と私(24)

疎開先での思い出二題

星野 征男

私が幼児教育を志した頃(23)

津守 真

ある日

保育の「ほりおこし」から見えるもの

生活の流れの中で

耳をすまして目をこらして(19)

育てられている時代に育てることを学ぶ

(3)―ジェンダーフリー―意識の形成と

保育教育―金田 利子・加賀 恵子

◇十二号

「子どもの遊び」を理解するとはどの

ようなことか

「地域」との連携―その意味の仕切り

直しの必要性―

比企の畑から 主人公たちの起源

小宮山洋夫

私が幼児教育を志した頃―最終回―

津守 真

私の所感―『幼児の教育』一〇〇巻

にちなんで―

堀合 文子

耳をすまして目をこらして(20)

宮里 暁美

いま、子どもたちは 今だから語れる

「虐待」―子育て経験者のアンケート―

トから見えるもの― 清水 正江

幼稚園誕生の時代―関信三の葛藤―

(十一)『幼稚園法二十遊嬉』―幼稚園の

普及を願って 国吉 栄

『幼児の教育』と私 私にとっての

「書く」こと 田中三保子

幼児の教育 第一〇〇巻(平成十三年)

総目録